



鉄砲館だより

〒230-0215

ぶんぶん文化財

Cultural property

【第2回】種子島家に伝わる宝刀  
「太刀」銘国宗

(備前三郎)「市指定文化財」

鎌倉時代中期 長さ八十六・一cm 反三・六cm

(種子島時邦氏所有 鉄砲館保管)

この太刀は、鎌倉幕府初代執権「北条時政」が、種子島家初代「信基」に与えたとされているものです。(種子島家譜に記載有)

刀身は鎌倉時代中期独特の特徴をもち、刃文は広狭の激しい華麗な丁字乱で、「国宗」初期の作といわれています。

刀剣書によると、「国宗」(通称備前三郎)は、鎌倉時代中期の備前国(現在の岡山県東部)の刀工で、京都を経て鎌倉に定住。生没年不詳であり、謎の多い人物とされています。

鎌倉時代屈指の名工であり、その作品は日本刀の歴史の中でも極上作とされ、四口が国宝に指定されているほどです。(そのうちの一口は照国神社所有、黎明館保管。)

この名工「国宗」の太刀が、南島の種子島に存在していることに大きな価値があり、種子島家の由来や当時の歴史背景を考える上で、極めて重要なものとされています。

刀剣は、日本が誇る美術品であるとともに、歴史の証言者でもあります。

ぜひ鉄砲館で実物をご覧ください。



(文責 種子島開発総合センター所長 沖田純一郎)